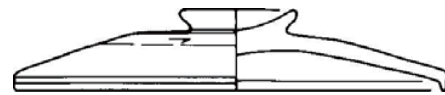


平成24年3月18日(日)

調査で見つかった遺物

^{す え き ふた}
須恵器 蓋 (8世紀前半：奈良時代)

坏や壺にかぶせる。つまみの部分が環状になるのが群馬県内の特徴です。

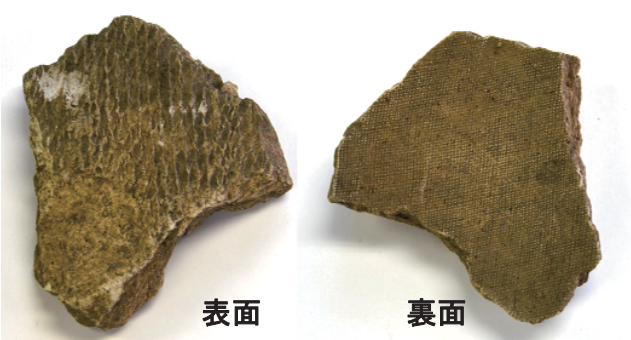


参考実測図

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡』報告書より

^{ぬの めがわら ひらがわら}
布目瓦 (平瓦) (8世紀：奈良時代)

裏に布目がついているのが古代の瓦の特徴です。瓦の出土は寺院や公の建物の存在を連想させます。



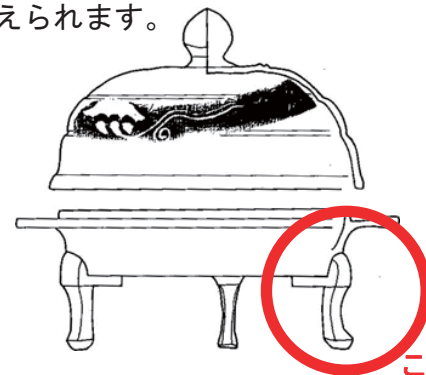
表面

裏面

^{じゅうきやく かしゃこうろ}
獸脚？の破片 (火舎香炉？の脚)

1点のみの出土で不確定ですが、獸の脚をかたどったものと思われます。

獸脚であれば香炉の脚に当たると考えられます。



この部分か？

参考実測図

中栗須寺前遺跡出土 銅製火舎香炉 (中世)

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書より

多胡碑周辺重要遺跡 範囲確認調査

現地説明会

現在、高崎市教育委員会では、吉井町池地内において、多胡碑に関連のある遺跡の発掘調査を行っています。この発掘調査は、以前から多胡碑の周辺に推定されている古代多胡郡の役所（郡衙：ぐんが）および関連遺跡の場所を明らかにすることが目的です。

調査の最初である本年度調査では、郡衙が機能していたと考えられる1300年前（8世紀）の土器や瓦が出土しました。その他、郡衙が展開した以前の古墳や、以後の集落跡の存在も明らかになりました。



古代の郡役所（郡衙）イメージ図

高崎市教育委員会

多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査 現地説明会資料

平成24年3月18日

発行 高崎市教育委員会文化財保護課



2 トレンチ 墳丘列石検出状況（南から）
2 トレンチでは全長約 7m の古墳を確認
しました。墳丘裾の石列がまるくめぐ
ることから、円墳であることがわかりました。
墳丘南際からは祭祀に使われたとみられる
須恵器の大甕とおおがめ ちょうけいこと長頸壺が出土しました。



4 トレンチ 谷地形（南から）

調査地周辺は現在平坦な地形ですが、昔は深い谷になっていました。谷は平安時代には埋まり、現在のような地形になったとみられます。

